特別講演

働く世代の新しいがん予防対策

5 月 12 日（金）　13：00 ～ 14：00
第 1 会場（TFT ホール 1000）

座長：栗原　敏（学校法人　慈恵大学）
演者：中釜　斉（国立研究開発法人　国立がん研究センター）

座長略歴

栗原　敏（くりはら　さとし）
【学歴】
1971 年　東京慈恵会医科大学　医学部卒業

【職歴】
1971 年　東京慈恵会医科大学第二生理学教室助手
1976 年　東京慈恵会医科大学第二生理学教室講師
1980 年　東京慈恵会医科大学第二生理学助教授
1986 年　東京慈恵会医科大学第二生理学
（現　細胞生理学講座）教授
（2012 年 3 月迄）
2012 年　東京慈恵会医科大学名誉教授

【役職・学内】
2001 年　東京慈恵会医科大学学長（2013 年 3 月迄）
2001 年　学校法人慈恵大学理事
2003 年　学校法人慈恵大学理事長（現在に至る）

【受賞歴】
日本宇宙航空環境医学会功労賞
【専門分野】
筋生理学、体力科学、宇宙航空医学

【資格】　医師免許証

【主な所属学会・役職】
日本生理学会（前理事長）、日本体力医学会・理事
日本病態生理学会・理事、日本宇宙航空環境医学会・理事

特別講演

働く世代の新しいがん予防対策

中釜　斉
国立研究開発法人　国立がん研究センター

今や日本人の２人に１人が一生に一度はがんを経験し、一年間に100万人近くの人が新たにがんに罹ると報告されています。社会の超高齢化に伴い、この数値は今後さらに増加することが想定されます。がん患者の増加の流れにブレーキをかけ、がんの罹患率・死亡率を減らすためにも、がんの原因解明に基づいた効果的な予防法・早期診断技術の開発、及び個々のがんの特性に応じた治療法の開発が望まれます。

これまでの研究成果により、がんに対する様々な治療法が開発されてきました。がんが発生する仕組みを詳細に研究することで、早期発見に資するバイオマーカーや効果的な治療薬が開発され、がんの治癒率が改善されています。最近は、ゲノム研究の成果により、一人一人のがんが個性を持っていることも分かってきました。このようなゲノム研究の成果を予防・早期診断及び治療に応用することで、個々人のがんの個性を考慮した新たながん医療技術の開発や医療提供体制の展開が期待できるようになってきました。

本セッションでは、ゲノムがもたらす個々人に最適な新たながん予防対策について解説します。

略歴

中釜　斉（国立研究開発法人　国立がん研究センター）

【学歴】
1982年　3月　東京大学医学部医学科卒業

【職歴】
1984年　6月　東大病院第３内科医員
1985年　6月　東大病院第３内科医員
1985年12月　国立がんセンター研究所がん研究振興財団流動研究員
1986年12月　国立がんセンター研究所発がん研究部研究員
1988年　4月　東大病院第３内科医員
1990年　4月　東大病院第３内科文部教官助手
1991年　1月　米国マサチューセッツ工科大学（MIT）がん研究センター　リサーチフェロー
1995年　4月　国立がんセンター研究所　発がん研究部室長
1997年　4月　国立がんセンター研究所　生化学部長
2007年　4月　国立がんセンター研究所　副所長
2011年　4月　国立がん研究センター　研究所長
2016年　4月　同　理事長

【専門分野】
分子腫瘍学、がんゲノム、環境発がん

【主な所属学会・役職】　等
日本癌学会：副理事長
日本プロテインホスファターゼ研究会：世話人会メンバー
日本がん予防学会：評議員・監事
日本HBOC（Hererditary Breast and Ovarian Cancer）コンソーシアム：顧問、等